



主張の読み取り

チェック

名前

月 日

① 次の『アンパンマンは どうして生まれたか』を読んで、後の問いに答えましょう。

自分の顔であるあんパンを、おなかをすかせた人に食べさせてあげるアンパンマン。作者のやなせたかしさんは、この作品にかれの今までの人生をこめている。やなせたかしさんは、おさないころに親とわかれ、さみしい思いをしていた。さらに、戦争中は、うえに苦しみながら中国大陆を千キロも歩き回った。② そのような経験をしてきたかれは、自分をぎせいにしても、目の前にいるうえた人に一かけらのパンを差し出すことが正義だと考えたのだ。アンパンマンのマーチにもあるように、アンパンマンは人々にとって太陽なのだ。

(1) そのような経験とは、どんな経験ですか。二つ書きましょう。

・おさないころに ()、

() 思いをしてきた。

・戦争中は () に苦しんだ。

(2) やなせたかしさんの考える正義とは、どんなことですか。

自分を () にしても、目の前の

() 人に ()

を差し出すこと。

② 次の『森の防潮堤』を読んで、後の問いに答えましょう。

東日本大震災で発生したがれきは、二千万トン以上。この大量のがれきをどうするかが、大きな課題であった。

そこで、このがれきを活用しよう、という取り組みが始まった。青森県から福島県の海岸ぞいに、土がれきを混ぜて土の提防を築き、そこに、いろいろな種類の木を植えて、「森の防潮堤」をつくるという取り組みだ。

がれきの木へんは、十年で土にかえて、木の養分になる。また、コンクリートに根がまき付けば、木がたおれにくくもなる。

まさに、がれきというゴミを、有効な資源として役立てようとしているのだ。

(1) どんなことが課題でしたか。

東日本大震災で発生した大量の

() をどうするかということ。

(2) (1)の課題に対して、どのような取り組みが行われましたか。

森の () をつくる取り組み。

(3) 筆者が言いたいことは、何ですか。

がれきという () を、有効な

() として役立てているということ。



主張の読み取り

おさらい

名前

月 日



次の『人口減少の社会は?』を読んで、後の問いに答えましょう。

① ある調査では、二一〇〇年には、日本の人口は、六千万人ほどになると予想されている。今の半分ほどだ。

② このことをふまえ、今後どういう社会にしていくべきかを考えなくてはならない。

③ 人口減少社会になって住む人が減ると、今までにつくってきた道路、橋、トンネルなどの中には不要なものも出てくるだろう。

④ そこで、これまでの「つくる」から「こわす」という発想が必要になってくる。

⑤ その一つの例が、熊本県の球磨川の中流にある、水力発電せん用の「荒瀬ダム」のてつ去工事だ。工事にふみきったのは、人口減少により必要な電力量が減ったことと、自然をよみがえらせたいという思いからだ。六年かけて工事を終え、きれいな川と生き物たちもどりつつあるという。

⑥ この工事は、人口減少社会への対策と、自然との共生を実現させた、一つのモデルであると言えるだろう。

⑦ これからの日本では、これまでの「競争の社会」から、人と人が助け合い、自然とも共生する「共助・共生の社会」へと変わっていくことが求められるだろう。

(1) この文章で、課題が書かれているのは何だん落ですか。

だん落

(2) 文中の②は何を指していますか。

日本の人口は、二一〇〇年には

ということ。

(3) (1)の課題に対して、どのような発想が必要になってきますか。

「から」

(4) 荒瀬ダムのてつ去工事が始まった理由を二つ書きましょう。

(5) (1)の課題に対する筆者の主張が書かれているのは、何だん落ですか。

だん落

(6) (5)のだん落での筆者の主張を書きましょう。

の社会から

の社会へ変わるべきだ。



クジラは陸を歩いていた？

名前

月 日

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

地球上で初めての生命は、海で生まれた。その後も太古の生き物たちはみな海で生まれ、海から陸に上がっていった。しかし、その逆をたどった生き物がある。クジラだ。わたしたち人間と同じほ乳動物だが、陸から海の世界へもどっていったのだ。

クジラの祖先は、長いしっぽがあり四本足で、全体は毛でおおわれ、今のオオカミのような体をしていたと言われている。名前は「パキケタス」。とてもおとなしい性格で、主に水辺で生活し、ときにおそわれたときや、エサをとるときに水中に入っていたようだ。

では、そんなにすがたがちがうのに、なぜ「パキケタス」がクジラの祖先とわかったのだ

ろうか。

① そのなぞを解くカギは、耳のほねにある。陸上でくらすほ乳動物は、音を空気のしん動でとらえる。そのため、空気のしん動を受けるすき間があり、耳のほねはうすい。しかし、海で生活するクジラは、水中で音を聞く必要がある。水中で伝わる音のしん動をまずあごのほねでとらえ、そのほねのしん動で音を聞くため、耳のほねは厚くなっている。

「パキケタス」は、このクジラの耳の仕組みにとってもよく似ている。このことから、クジラの祖先であると言われるようになったのだ。

今でこそ、魚そっくりの見た目で海をゆうゆうと泳いでいるクジラだが、昔はけもののようなすがたで陸を歩いていたのだ。



▲パキケタス

(1) 文中の①はどのようなことですか。

ほかの生き物たちは () から () に上がっていったが、クジラは () から () の世界へもどっていったということ。

(2) クジラの祖先の動物は、どんな体をしていましたか。

() のような体

(3) クジラの祖先の動物は、どんなときに水中に入っていましたか。二つ書きましょう。

() ()

(4) そのなぞとはどんななぞですか。文中からさがして~~~~を引きましょう。

(5) 陸上でくらすほ乳動物は音を何でとらえますか。

(6) なぜパキケタスがクジラの祖先とわかったのですか。

() から、 () の () が () から。